

認知症がある方の ありとあらゆる『行動』に 微塵もイラッとしなくなる方法 No.006

【帰宅願望】

『家に帰りたい』『こんな所に住めない』『息子に電話してほしい 迎えにきてもらう』
家に帰ることを目的としたあらゆる訴えです。ほくも新人時代困り果ててました。

①認知

ここはどこだ？わからない。

②思考

家に帰ろう。

③行動

家に帰る。歩き回る。『家に帰るからハイヤーを呼んでほしい』

①認知で、自分がわけがわからない場所にいると認知します。

見慣れない部屋、見慣れない人たち、見慣れない風景、ここはどこだろう？とりあえずあの若い人に聞いてみよう。

『……すみません ここはどこですか？』『また忘れたの？ここは〇〇の里だよ』

『……え、どこですか？』『大丈夫だから 今日は泊まって明日帰ろう』

『え、泊まるの？』『安心して！さあ、早くご飯食べちゃって！』

……よくわからない。何が大丈夫なんだろう。全然大丈夫じゃないことに気づきます。

となると、もちろん②思考で『なんだか怖い。おかしい。気持ちわるい。こんな所には住めない。はやく帰らないと』となります。

わけのわからない場所にいると①認知したら、かなり多くの人が帰ろうとします。

どこに？もちろん家にですね。家は自分が安心してできる場所の『象徴／シンボル』みたいなものです。

あなたも外で嫌なことがあると、ササッと居心地がいい家に帰りたくなりませんか？

認知症の方のなかには自宅にいるのに『家に帰る！』と言う人がいますが、

それは自宅を家だと①認知できない＋自宅が安心できる場所じゃないことが多いです。

だから、ほかのどこかに行きたくなるんですね。

……かなり、切ない状態ですね。本当の家にいるのに、実際には存在しない家に帰りたいんですよ。

よく目的がなく歩き回るのを『徘徊』って言いますが、家に帰りたくて歩き回っていたら、そりゃ徘徊じゃないですよ。

だって、ご本人は『家に帰る』ために歩いてるだけなんですから。

ほかにも『あの人は徘徊だ』って言われながら、ご本人は天気がいいから散歩したり、

足腰が弱らないように運動したり、トイレに行きたいだけだったり…もうそれは徘徊じゃないですよ。

③行動だけみて、徘徊って名前つけてわかったつもりになるの、本当にやめてほしいです！…すみません。つい熱くなっちゃいました。

①認知で『ここは家じゃない』って認知できてるから、家に帰りたいんです。

逆に、施設にいるのに『ここは家だ』って認知したら、それこそまずいですよね。

家に帰りたい方は、しっかり家じゃないことをわかってるんです。

施設にいる理由が①認知できないだけなんです。帰りたくて、当然です。

対処法としては、月並みですが、認知症の方が今いる場所が少しでも安心できる場所になるように努めましょう。

心地よい空間、やすらぎの雰囲気、こわくない人たち、満足がいく暮らし、やることは途方もなく多いです。

そこまでがんばっても、朝起きてただっ広いフロアを見ただけで『こんな場所には住めない』ってなりますからね。

本当にむずかしいです。

……でも、いい話もおきます。人には環境適応能力があります。住めば都って言葉があります。

ちょっとばかし変な場所に住いても、1日、1週間、1ヶ月、1年と暮らし続けていくうちに、変が普通になってきます。

認知症がある方にも『まあ、ここもわるくないな』って感じてもらえるようになる日が必ずやってきます。断言します！

その日が1日でもはやくおとずれるように、ぼくらは一生懸命ケアしましょう。

『ここは、わたしを大事にしてくれる人(あなた)がいる』

それが認知症の方の大きな力になると、ぼくは確信しています。